



ひがしとよなか だより

学校目標 豊かな心を持ち、よく考え、自分の力で生きぬく子ども

令和7年(2025年)度11月号

豊中市立 東豊中小学校

校長

河上洋介

全国学力・学習状況調査の結果について

4月16日(水)から25日(金)にかけて実施した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。

概観すると、平均正答率は、国語、算数、理科のいずれも府、全国よりやや上回っていました。正答数分布を見ると、理科では、ばらつきが少なめになっていました。教科ごとに見ていくと、まず、国語では、書くことの区分についての設問で、府や全国よりもよくできていました。算数では、測定の区分についての設問に課題が見られ、逆に、図形の区分についての設問は、よくできていました。理科では、記述式の設問に課題が見られました。課題のあった理科の設問を、裏面に紹介しています。裏面にも書いていますが、記述式に課題があるということではなく、問題文を正確に理解することに課題があったと考えています。

<まとめ>

・全体を通して、問題を読み、何を問われているのかを正しく理解して解答することに本校の課題があります。先生が「この問題はこういうことを聞いているよ。」とか「こんなふう

に答えるといいよ。」と説明しなくても、子どもたちが自分で理解できるように指導をしていくことが大切です。

・例えば、問題文に「【資料3】を読み、」と書かれていれば、【資料3】を手掛かりに考えればいいことが分かります。

・語彙を増やすこと、言葉をたくさん知ることが大切です。今回の国語の問題で、「時代」「世代」というよく似た言葉が選択肢の中に出てきていました。これらの意味を混同してしまっただめに、間違えた子もいたかもしれません。

・さらに、言葉1つ1つの意味が分かっているだけではなく、「だから」といった接続詞に着目して、言葉と言葉のつながり、文脈を読み取ることも大切です。

・問題で読み取るものは、言葉や文章だけではなく、算数では、数直線の1目盛りが何を表すのかを読み取る問題もありました。

・数直線以外にも、例えば、今回の国語の問題で折れ線グラフが出てきたように、表やグラフ、図、絵、順序や関係を表す「→」等、様々な資料から読み取る学習が大切です。

・普段の学習の中で、読み取ったことを発表し合うといった学習も有効です。読んだだけ、聞いただけの受け身のときよりも、自分でもう一度、言ったり書いたりすると、理解が深まるでしょう。

・算数の文章問題では、読み取った内容を図や表、絵等に表すことが役立ちます。

・また、先生が「聞かれていることは何ですか。」「この問題で分からないことは何ですか。」

逆に「分かっていることは何ですか。」といった質問をして、子どもたちが自分で理解することを促すことも大切です。

・問題を理解するという話とは変わりますが、裏面で紹介している理科の問題では、児童が自ら問題を見つける場面が描かれています。普段の授業の中でも、先生から出された問題を解くだけでなく、子どもたちが問題を見つけ、解決していく学習が求められています。

<連絡やお願い>

・小学校スクールカウンセラー福島さんの次回派遣日は11月7日（金）です。その次は11月28日（金）です。面談希望がありましたら担任あてお申し出ください。

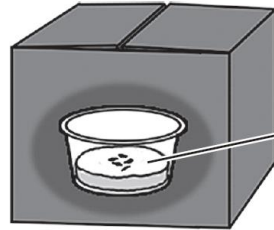
たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



たかひろ

レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、一つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめらせた
だし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から一つ選んで調べてみたい。



てるみ

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を一つ書きましょう。

この問題の正答例は、「レタスの種子が発芽するのに、日光（または肥料）は必要なのだろうか。」です。てるみさんは「上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。」と言っているので、日光または肥料のいずれか1つの条件を解答に含めることが正答の要件の1つになります。本校の誤答傾向を分析すると、日光または肥料という条件を書いていない

ものが府や全国よりも多く見られ、特徴的でした。先生が「てるみさんが言っている上の条件」とは何ですか。「てるみさんが選んだ条件は何ですか。」などと子どもたちに質問してから解答すれば、「かんたん、かんたん。」と正しく解答できる子が増えるのではないのでしょうか。

最後に、児童質問紙で本校の特徴が表れていた項目を1つ紹介します。「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いませんか。」という項目です。府や全国の結果でも肯定的意見は多くありませんでしたが、本校ではさらに少なくなっていました。特に「あてはまらない」と回答した割合が府や全国よりも非常に多くなっていました。10月6日

(月)に、大阪大学の特任教授坂口志文先生が制御性T細胞の発見によりノーベル生理学・医学賞を受賞しました。8日(水)には、ノーベル化学賞を京都大学の特別教授北川進先生が受賞しました。二酸化炭素など、狙った気体を分離して貯蔵できる金属有機構造体を作製したことによるものです。また、本校の学校図書館に11月から新しく入る本の中に「理科ダマン」シリーズがあります。漫画ですが、いろいろな理科に関わる豆知識

を面白く紹介している本です。全部で10冊入っています。ノーベル賞のニュースやこういった本も1つのきっかけにして、理科にも興味を持つ子どもが増えるといいなと思いました。

